

大分教育事務所訪問②-37 (計110)

津久見市立青江小学校に学ぶ2 学校経営から学ぶ

若手の教職員が多い本校は、授業改善と学級づくりに焦点化した学校経営を行っています。特に授業改善に力を注ぎ、校内研究のみならず、津久見市授業力向上アドバイザー仲村善彦教諭の指導を校内全体で受け止め、「授業実践シート」を日々の授業に生かしています。また、学級づくりについては、若手の教職員に対して、生徒指導の本質や具体的な手立てを管理職や養護教諭が中心に指導を行うことで、子ども達の良さを引き出しながら、本校が育成を目指す資質・能力である、「課題発見力」「課題解決力」に取り組んでいます。

さらに、友達の良い所を見つける「花咲き山」の活動は生活委員会（児童会）と共に行う等、6年生をリーダーとした自治力の向上が図られ、落ち着いた環境の中で学び合う姿が見られました。

このように、子ども達の特徴だけでなく、職員それぞれの強みを生かした組織的な取組は、大量採用時代における学校経営の在り方として大いに参考になると思いました。

行事などの見直しも、その目的を確認することで統合や削減を行ったそうです。今後も、教職員が何をするかということよりも、「子ども達にどのような力をつけるか」「何ができるようになるか」と、子どもを主語にした視点で協議をされると良いと思います。同様に、保護者や地域方と「つけたい力」について熟議をすることで、より協働的な実践が行われると思いました。

※参考資料「小学校学習指導要領解説 総則編 pp.47-53 (2)教科等横断的な視点に立った資質・能力 ①学習の基盤となる資質・能力」

授業から学ぶ

どの授業も、子どもがみつけた「課題」から授業が展開されていたので、子ども達が意欲的に取り組む姿が見られ、もっと授業を参観したいと思いました。特に5年生の学び合いや、特別支援学級の個別指導、4年算数でのICTを利用した見通しの持たせ方は大いに参考になりました。

また、指導案の「振り返り」は、教師が願う具体的なゴールの姿を「子どもを主語」にして書かれています。今後は、より具体的に表現することで、本時でつけたい資質・能力を明確にしてみたいかがでしょうか。そして、互見授業等で教師が考えた「振り返り」と子どもが実際に書いたものとの違いから学んだり、「めあて」との連動、評価規準との整合性について協議したりすることで、授業改善がより推進されると思いました。



NO.490 2021年11月 津久見市立青江小学校

豊かな心

相手が跳びやすいように縄を回す。一生懸命応援する。優しい人に囲まれるから挑戦できる。



NO.491 2021年11月 津久見市立青江小学校

考え学び合い

それぞれの考えを出し合うと、違いや共通点が見つかる。だから、考えが深まる。発見がある。



NO.492 2021年11月 津久見市立青江小学校

仲間と共に

同じ考えでも説明の仕方はそれぞれ異なる。その人らしさが表れる。だから、楽しい。



NO.494 2021年11月 津久見市立青江小学校

見守る人が

言葉もうれしいけど、優しく見守られていることを感じると安心する。だから、自分を出せる。



NO.493 2021年11月 津久見市立青江小学校

伸びる

まっすぐに腕を伸ばし指先まで集中する。その姿を見て、みんなも伸びようとする。